

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893700050		
法人名	社会福祉法人 博愛福祉会		
事業所名	サンホームみかづき グループホーム		
所在地	兵庫県佐用郡佐用町志文515		
自己評価作成日	平成23年10月28日	評価結果市町村受理日	平成24年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-8-102
訪問調査日	平成23年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境で花に囲まれ、動物達と共に生活できる明るいう施設です。季節に応じた野菜や果物を頂く等地域の方々から温かい目で見守って頂いています。家庭的な雰囲気の中、利用者の経験や残存機能を活かして頂きながら、花や野菜を育てる楽しみや動物達との触れ合いは利用者や職員の生活に潤いを与えています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山里の自然豊かな環境の中で、動物たちと一緒にのんびりとした雰囲気と採光を十分に取入れた明るい施設です。また、地域との関係において文化祭や運動会などの行事に積極的に参加して利用者の方が地域との関わりが切れないように努力している。特別養護老人ホームを中心とする複合施設内にあるグループホームで、緊急時の防災計画や職員の施設内研修も一体的に運営され、それぞれが役割分担を持ちながら、「安全に暮らせる家」を目標に取り組んでいる。利用者の方の個々の状態把握にも努めており、その人らしい暮らしの支援に向かって職員が一丸となって実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の目に留まりやすい場所に理念を掲示している。理念を毎日唱和することにより、共有し、日々の中で確認し合い、実践に繋げている。問題(迷い)があれば理念に基づき行動・実践するように努めている。	事業所の理念を玄関から入って見やすく目につくところに掲げている。また、理念の周知については毎日の引継ぎで唱和し、ケース会議においても理念に基づいた判断を行うことで介護視点のふれぬい介護が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(寄り合い・環境美化デー・とんど・小学校の運動会・文化祭・)等に参加し、また、地域の方々から施設の行事・ボランティア喫茶等で来所して下さっている。利用者については施設行事に参加、交流に努めている。	町で計画されている行事や文化祭、小学校の運動会や集落単位に実施されるふれあい喫茶等に積極的に参加し地域との付き合いは充実している。	日々の生活を通して地域の一員として交流できる地域との係わりづくりを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	よろず相談の場として相談があればすぐに対応できるように取り組んでいる。サービスの利用方法等在宅新聞等により紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期開催を行い、利用運営状況・行事・第三者評価の結果等を報告し、情報提供や意見交換を行っている。事業所に対する意見・助言・要望をサービス改善に活かしている。	行政担当課1名、地域包括職員2名、民生委員、地域代表、家族代表とバランスのとれた委員で2ヶ月に1回開催されている。会議では、地域行事の情報や利用者支援の紹介から意見を貰い施設運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回介護サービス事業所連絡会に施設全体から2名出席、市町村担当者と情報交換し、地域高齢者の為の連携が図れるよう取り組んでいる。	運営推進会議の委員として、行政の担当者、地域包括支援センター職員が加わり、事業所が知りたい情報のやり取りがあり、市町村担当者も介護現場の現状を理解する姿勢がみられ行政との連携は十分図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修や委員会活動を通じて取り組み、職員の言葉や行動でご利用者の行動を制限し自由を奪っていないか話し合い注意し合っている。玄関は鍵を掛けているが掛ける事による行動の制限を理解し可能な限り開放している。	職員研修会や委員会は、併設施設と一体的に定期研修が計画され、実施されている。研修で習得した情報を基にグループホーム利用者の個々の状態にあわせた日常支援に生かしている。	山間部に立地する施設であり、見守り重視の利用者が無断外出の危険等から玄関等の一部施錠が見られるが、閉塞感を感じさせない工夫の継続を期待したい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外研修で学ぶ機会を設けたり、資料により共通認識を持ち、周知徹底している。2人介助をすることにより、お互い声を掛け合い注意し合うことにより防止に取り組んでいる。	高齢者虐待に関する資料を基に、人権擁護の基本的な知識を共有し、意識改革だけでなく、出来る限り2人介助を基本とするゆとり介護で虐待を起しにくい組織作りに取り組んでいる。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外研修、新人研修等で成年後見人制度について学んでいる。必要に応じて相談できる機会を持ち、専門職と繋ぐ支援をする等、支援体制も整えている。	人権擁護に関する研修や成年後見人制度の理解等は、新任職員研修から取り組み全職員に周知している。また、利用者の家族や地域の方から相談を受けた時は、内容によって司法書士等の専門職に繋げる支援体制も整えている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結に際しては、施設管理者又は計画担当者が契約書と重要事項説明書による文章で説明している。不安や疑問があればすぐに対応に応じ、ご本人とご家族に丁寧に時間をかけて説明している。	利用者・家族を交えて説明を行い、特に不安とされる入院・退院の対応についてや施設利用の変更についてまで丁寧に説明をしている。	重要事項説明書・利用契約書の中に、入院継続による退所期間を具体的に記載し、トラブルが発生しない書類整備を検討されたい。
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に面会時に意見・不満・苦情等を伺うようにしている。又、意見箱の設置と苦情に対する窓口を設ける等言いやすい環境づくりに努めている。頂いたご意見等は速やかに対応策を考え検討、改善に反映させている。	苦情やご家族の意見を聞く体制として意見箱を玄関に設置されているが、投入されることがほとんどないために、面会時のご家族との会話を大切にし要望を聴取している。	意見箱の設置する位置の工夫を行うことや家族会等において、意見箱の設置の意義や意味を理解して頂く取り組みを検討されたい。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの場等で意見交換を行う場がある。又個別に意見を聞いたりする機会も作っている。日々の勤務の中で職員の思いを聞き、お互いに連携を取れる体制作りをしている。	職員が意見や提案を活発に発言できる職場づくりを推進しており、人事考課制度を活用して上司との面談する機会が設定され、直接自分の思いを伝えることが出来る体制がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績・勤務状況を把握し、得意な分野で力を発揮できるように努めている。職員の資格取得にも学習の場を設けている。又、チームでの学習に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員や異動後の職員に個別に研修の機会を設けている。施設外研修の機会確保に努め、計画的に行い、伝達研修・報告も行い、他の職員も学べる機会を設けている。施設内研修では専門職による研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加したり、他事業所の職員が来所された際、同業者との交流、意見交換を行っている。又、他の事業所との見学研修を実施している。介護サービス事業所連絡会に参加し同業者との情報交換や交流に努めている。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の自宅訪問や見学に来られた時にご本人自身・ご家族の思いや希望を聞くとともに話しやすい雰囲気作りに努めている。ご本人・ご家族や関係事業所等の情報収集を行うように努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用にあたっては、自宅や事業所等で事前面接を行い、ご家族から介護に対しての不安や悩みを聞き、家族の思いや要望を受け止めるように努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予約されている方々が併設施設の小規模多機能事業所を利用されていることが多く、併設施設の利点を生かし、利用者相互の交流を図り、その人にとっての必要とされる支援を見極めるよう努めると共に他のサービス利用を進めた対応をを行っている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴やご本人の話を聞き、状況把握をし、生活の場で自分を活かす場面を作るように配慮している。又利用者と職員が協力しながら自立した生活ができるように支援している。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止めながら、電話や面会時にはホームでの生活・状況を話し、その中で家族に意見を求めたりしながら、利用者を一緒に支援できるように努めている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会して頂けるよう入りやすい環境作りに努めている。居室等ご希望の場所で過ごして頂いている。面会の少ない時には連絡する等関係が途切れないようにしている。馴染みの地域行事の参加に努めている。	知人や地域の方が訪ねてきやすい施設づくりを目指しており、個別に面談出来るスペースも確保できている。馴染みの地域の方とは、リビングで楽しくくつろげる雰囲気づくりにも努めている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いに声を掛け合い、互いに支えあっていらっしやる。職員も交流ができるようにさりげなく気配りしている。年間を通して作品を作る等、利用者同士の関わり合いや支え合えるような支援に努めている。		

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域を訪問した時にはご自宅に立ち寄り、お話を伺う等、ご家族の経過をフォローする等支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から又個々に関わる時間を作って、思いや意向の把握に努めている。意思の疎通の難しい方には、動作や表情から汲み取るようにしている。家族からも希望や意向を聞くようにしている。	利用者の思いの反映については、買い物や散歩等の思いを叶える為に職員の勤務の工夫をする等の取り組みが出来ている。また、十分に意思表示が出来ない利用者に対しては行動や表情から読み取り、援助につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活からの情報や面会家族からの知り得た情報をフェイスシートに記入、職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしを観察し記録、これらを基にカンファレンスを行い、検討し、総合的・客観的に把握するよう努めている。変化時には状況・対応法を申し送り・指示連絡簿に記入し全職員が状況を把握するようになっている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望を伺い状況により関係者・主治医に相談、助言を頂き、その中でアセスメントから見直し迄のサイクルの実践を行っている。定期的カンファレンス・モニタリングを行い些細な変化も見落とさないよう確認し計画立案に結び付けている。	1ヶ月に一度、本人や家族の要望、状態の変化をスタッフ全員で話し合い、情報を共有すると共に、変化のある場合は介護計画の見直しにつなげている。	カンファレンス・モニタリング記録、介護計画の作成等、一連の流れが連続的に確認できるように書類の整理が望ましい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル・排泄・食事・出来事等、1日の流れに沿って記録している。会話をそのまま記録する等日々の様子がわかるように取り組んでいる。又1ヶ月のまとめを行い情報の共有や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の生活上の変化を的確に把握し、その時々に応じて相談を受け、柔軟なサービス提供ができるように努めている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インターネットや併設の居宅介護支援事業所より情報を頂く等情報把握に努めている。利用者や家族の意向に応じて、地域住民・ボランティア・警察・消防・文化教育機関の協力を得、様々な助言を頂いている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望により、かかりつけ医への受診や往診を依頼、又通院介助も行っている。家族が付き添いし受診する場合も施設での状況を説明し、結果を教える等、情報の共有を図っている。	入所以前の主治医が、入所後もかかりつけ医としてホームに往診して貰う体制が出来ており、健康管理と合わせて昔話出来るなど精神的支援にも配慮されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設と通所介護の看護師と気軽に相談したり様子観察を兼ねた交流も行っており、情報の共有も出来ている。年1回の健診を行う等健康管理に努めている。夜間の緊急時は待機看護師に依頼している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療できるように入院中も定期的な病院訪問を行っている。、病院での状態を把握し、医療機関とも入退院時の情報交換・相談を行う等、退院に向けて、職員間で情報を共有し、受け入れ態勢を整えている。	近隣に入院設備のある医療機関が2か所あり、普段のかかりつけ医師との情報の共有がしっかりと出来ている。入院中の状態の把握については病室を訪問しての確認を行いスムーズな退院支援の体制が出来ている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・家族へ説明し、終末期のあり方を確認している。常に今後考えられる問題を含め、家族と話し合い終末期に向けての準備ができるようにしている。併設施設ではターミナルを行っており、職員には施設内研修を行う等意識付けをしている。	重度化した場合や終末期の話し合いについては、家族やご本人との関係が出来た後、ターミナルケアに対する思いの聴取や、併設の施設利用も含めて、利用者にとって最善の方向を家族と一緒に協議し援助している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回救急蘇生・AED講習を行っている。緊急時マニュアルを作成し、施設内研修・訓練を行う等把握し対応している。急変時に早期対応ができるよう看護師の指導により対応方法を確認、早期発見に努めている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に併設施設との合同避難訓練、防災訓練を行っている。その都度、設定を変え、訓練法を身につけている。夜間を想定した訓練も行っている。地域住民・消防団と協力体制を整えている。	併設施設が、地域住民や地元消防団と協力して実施する合同防災訓練として実施している。特に夜間は勤務者が少ないこともあり、併設施設からの応援体制も確立されている。	定期的な防災訓練とは別に、グループホーム独自の避難訓練を実施し、利用者の行動把握や避難行動を意識づけるのが望ましい。

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライドや誇りを傷つけない、言葉かけや問題となる様な言動がないか、研修やカンファレンス等で話し合う等取り組んでいる。排泄入浴等人に知られたくないことにおいては他者の目に触れないようプライバシー保護に細心の注意を払っている。	身体拘束委員会が設置されており、身体拘束に関する内容に捉われず、不適切な言葉やプライバシーを侵害する恐れがある場合は施設内研修のテーマに取り上げ改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に合わせ、ご本人の意思に従い無理強いせず1つ1つ確認しながらコミュニケーションを取っている。ご本人の希望を聞き選択肢をいくつか出し選んで頂き、納得できる生活を送って頂けるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活歴、背景を理解しながら支援している。利用者の能力、体調、希望に沿って、1人1人のペースを大切にし、合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ衣類にならないように支援、買い物に同行しお洒落を楽しむようにしている。家族の付添で馴染みの美容院へ行かれたり、併設施設に来所される理美容師による散髪を利用、利用者の希望に沿うようしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じた準備・片付けを職員と一緒に行って頂いている。専用の箸・お碗・湯呑みを使い、思い思いのペースでゆったりと食事をしている。一般家庭のような落ち着いた雰囲気でも過ごして頂いている。	食事の提供は、併設施設からの提供であるが、使い慣れた箸やお碗、湯呑みなどを使い食事を楽める工夫がされている。また、時には菜園での収穫物を使つての調理も行い生活を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士指導の下、栄養バランスの摂れた食事になるように工夫し、食事形態も利用者の状態に応じた対応をしている。食事・水分量等をチェック・記録し、食事摂取量が低下の場合は好きな物を召し上がって頂く等配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人に応じた口腔ケアを行い、就寝前には入れ歯を預かりチェックしている。火・金曜日は洗浄液に浸している。歯科衛生士による口腔ケアも月2回行っている。		



自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録、把握している。トイレでの排泄を基本としており、誘導や紙パンツの有無等見直して自然排泄・自立できるように支援している。夜間は睡眠状況を配慮しつつ、必要に応じて声かけ支援している。	利用者全員の排泄チェック表を作成して、細かく状態把握を行い排泄パターンから排泄誘導を開始するなど排泄援助の改善に取り組み、一定の成果をあげている。	排泄チェック表のデータを活用して今後も排泄介助の改善が進むことを期待する。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便を確認している。自然排便が得られるように、食事や飲み物を工夫、水分摂取を促したり、健康食品・ヨーグルト等取り入れたりしている。又散歩や軽体操等を行ったり、腹部マッサージや温罨法を行う等状況に応じて対応している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の心身状況やご希望に合わせて、身体状況に応じた浴槽で出来る限り、リラックスできるように支援している。体調不良時は清拭や足浴を行い、身体の清潔に心がけている。又、入浴時には、殺菌・消炎・細胞の活性化等の効能があるロゾンピュール温泉の機器の導入により、健康管理に努めている。	中間浴が出来るリフト付きバスや一般浴槽がユニット別に設置されていることで、身体機能状態に合わせて安全に入浴が楽しめる環境が整備されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は身体を動かし、生活リズムを整えるようにしている。又その人の生活習慣に合わせて、寝具の選択や空調管理を行ったり、状況や体調に合わせて就寝前に足浴を行う等安眠の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や情報をケース記録と一緒に保管。把握し、すぐに確認できるようにしている。配薬から服薬迄のマニュアルを作成し、適切な服薬支援を行っている。変更あれば、申し送りと指示連絡簿で周知把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯等できる事は個別の役割として行って頂いている。生活歴、趣味や習慣、できることを把握し個々が主役となれるように支援している。菜園を作り、収穫された野菜を食卓にのせる事は利用者の楽しみの一つとなっている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は周辺の散歩を楽しんでいる。ご本人やご家族の希望に応じ、利用者の体調に配慮し、買い物や喫茶店へ出かけられるようにしている。又、外食や墓参り等、家族と調整を図り、出かけられるように支援している。	中庭にある菜園や花壇での作業中に、道行く近所の人との交流や町の行事への参加、かかりつけ医の診療所への受診などを中心に、面会の少ない家族には外出支援に対する働きかけを行っている。	



自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者・家族の希望に応じて金銭代行管理を行っている。買い物外出の機会を設け、利用者ご自身で希望の品を選んで頂き支払いについてもレジに職員と一緒に並んで頂き支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった場合、ご家族等への配慮も忘れずに職員が取り次ぎ、ご家族と直接話せるように支援している。手紙や年賀状等を書いて頂き、職員が預かり投函したり、又手紙が届いた際はご本人に手渡している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広いリビングで、個々それぞれの居場所があり、穏やかに過ごして頂ける空間を作っている。リビングの大きな窓からは、桜並木や四季折々の景色が楽しめる。又、四季を感じられる花、季節を感じさせる置物が置かれている。	リビングは明るくゆったりとしたスペースが確保されている。調度品も生活感が溢れており温かくくつろげる空間となっている。犬や猫が自由に空間を移動し、利用者の表情を和ませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファ・テーブル・テレビを見るコーナー、冬はコタツがあり、家庭的で温かい居場所作りに努めている。又ソファを各所に配置することで1人で過ごせる空間作りをする等、思い思いに過ごして頂いている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品を持ち込んで頂き、ご本人好みの物、観葉植物等を飾って有る等、利用者個々の個性が現れている。利用者や家族と相談・提案しながら居心地の良い居室作りに心掛けている。	個性あふれる自分らしい空間づくりを目指し、使い慣れた家具や生活用品の持ち込みを基本としている。なかには神棚や絵画の持ち込みを行い、その人らしく暮らす環境づくりが進んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレはトイレマーク、浴室は暖簾、居室の入り口はその人の玄関であるということで名前のついた名札を下けている。各箇所の段差をなくし、トイレや廊下に手すりを設ける等安全で自立した生活が送れるように工夫している。		